

拡大競技力向上委員会 資料

No.	競技	強化の方針	九州ブロック大会、本国内での競技成績目標		
			種別	最高目標	最低目標
1	水泳	<p>【競泳】</p> <p>目標は、本国内にて15点以上です。去年は、成年選手1人の点数だけなので、①複数の選手による得点習得と、特に、去年0点だった②少年での得点することを重点的に取り組む。</p> <p>【飛込】</p> <p>昨年度は過密な大会スケジュールの中、コンディションを整えることができず入賞を逃した。シーズンを通しての体力・筋力の維持とコンディションの調整を意識して取り組みたい。3月より合宿を重ね、早い段階で種目の完成度を高めることか出来ているがまだまだ改善の余地がある。</p> <p>【水球】</p> <p>県立佐賀東高等学校の単一チームである。これをチャンスと捉え、佐賀東高等学校での日々のトレーニングが国体九州ブロック大会への強化につながり、一致団結して大会に臨むことができる。</p> <p>本県では1・2年生主体のため、3年間をフルに使った強化を進めることができる。今年度を、来年度の飛躍に向けた強化の年度と捉えてより多くの試合経験を積ませたいと考えている。</p> <p>『強化策』</p> <p>【競泳】</p> <p>① 本大会に出場する選手全てが、ベストコンディションでレースに望めるようにする。</p> <p>② 出場選手は、本大会で出場することを目的とせず、「点数習得のために出場すること」の意識付けをする(去年より継続)。</p> <p>③ 全ての選手の各担当コーチと連携を重視する。</p> <p>【飛込】</p> <p>平日は、日没等で練習時間に制限がある。選手・指導者が日々の練習の目的意識を共有して、限られた時間で有意義な練習を行う必要がある。</p> <p>【水球】</p> <p>九州地区で屋内の年間を通して水球に使用できる環境がないのは佐賀県のみである。先述した通り、全国大会に出場できれば必ず得点に貢献することができる。九州地区を勝ち抜くためにも水球のできる室内プール、もしくは現在ある屋外プールを年間を通して使用できるようにドーム、ボイラーの設置が急務である。</p>	成年男子	【競泳】 8点 3位以内1種目 決勝進出種目2種目	6点 3位以内1種目
			成年女子	【競泳】 2点 決勝競技進出し一つでも上位を狙う	1点 決勝競技進出
			少年男子	【競泳】 8点 3位以内1種目 決勝進出種目2種目 【飛込】 二桁得点 表彰台 【水球】 九州4位(全国大会出場)	2点 決勝競技1種目
			少年女子	【競泳】6点 3位以内1種目 決勝進出種目2種目	1点 決勝競技1種目
2	ボート	<p>【少年男女】</p> <p>今年度、早稲田佐賀中高、唐津東高、唐津西高、唐津商業高で合同練習・合宿を年間を通して行い、選抜チームとしての意識を高め、国民体育大会、全日本ジュニア選手権大会(U19日本代表選手選考会)を最終目標に置いたトレーニングをしていく。</p> <p>【成年男女】</p> <p>ふるさと選手の下尾裕子(富山国際大3)、大木俊介(日本体育大2)、麻生信吾(富山国際大2)を中心に、地元で競技を続ける選手(高崎智世、坂本真依、竹内豊など)を重点的に強化する。また、佐賀大学医学部ボート部の選手から有望な選手を早期ピックアップし強化する。</p> <p>【その他】</p> <p>少年成年の合同練習・合宿を開催し、互いに高めあう機会を設ける。また、佐賀市富士町の嘉瀬川ダム湖面を有効活用し、レースモードのトレーニングを積んでいく。</p>	成年男子	本国内8位入賞	本国内準決勝進出
			成年女子	本国内8位入賞	本国内準決勝進出
			少年男子	本国内8位入賞	本国内予選突破
			少年女子	本国内8位入賞	本国内予選突破
3	ヨット	<p>1 男女総合優勝を最大目標とする。</p> <p>2 チーム佐賀として、個の長所を結集し、全体で共有し、全体の向上に努め、個の欠点をチーム全体のサポートにより修正し補う。</p> <p>3 国体佐賀代表選手が、ロールモデルとなり、社会に好影響を与えるよう努める。</p> <p>4 次世代選手の育成に取り組む。</p>	成年男子	シングルハンド級 1位 ウインドサーフィン級 10位 470級 3位	シングルハンド級 6位 ウインドサーフィン級 20位 470級 8位
			成年女子	シーホップSR級 3位 セーリングスピリット級 3位 ウインドサーフィン級 8位	シーホップSR級 6位 セーリングスピリット級 8位 ウインドサーフィン級 15位
			少年男子	シーホップSR級 1位 セーリングスピリット級 3位	シーホップSR級 3位 セーリングスピリット級 6位
			少年女子	シーホップSR級 1位 セーリングスピリット級 1位	シーホップSR級 5位 セーリングスピリット級 5位
4	陸上	<p>○競技目標</p> <p>天皇杯・皇后杯目標点数30点</p> <p>○強化方針</p> <p>成年選手については日本代表クラスの選手を中心に編成し、その時々の選手の状況に応じたサポートを行い、競技結果やコンディションの確認等の連絡を密に取り合いながら確実に点数を獲得する。</p> <p>目標点数達成には少年競技者の得点アップが必要不可欠となるので、少年競技者層を対象とした強化策をとる必要がある。高体連・中体連及び各校の指導者と連携をとりながらインターハイ、全中後も継続的な指導を行い、国体の得点源となり得る指導を行う。</p> <p>同時に、未来の佐賀県を担う中学生の強化を推進していく。具体的には、強化指定選手を選出し専門的技術指導を行う。また、強化練習会、強化合宿等を適回数設定し、タレント性の高い選手を発掘し、育成する。</p>	成年男子	—	—
			成年女子	—	—
			少年男子	—	—
			少年女子	—	—
5	サッカー	<p>小学校5年生から中学校3年生までの選手を対象に実施している「トレセン活動」の集大成として各カテゴリーで本国内出場を目指し、強化を進める。</p> <p>少年は16歳以下の大会となって、8大会中4大会は出場しており、特に一昨年度は本大会ベスト8となることができた。スタッフ一同、「本大会出場に満足することなく本大会での上位入賞を狙う」と言っている。本年度は中3時の主力選手の県外流出もあったが、逆に県外から優秀な選手がサガン鳥栖に入ってきているので、昨年度まで継続してきたトレセン活動をベースに、県外からの選手及び県内の早生まれ選手を加え、県内の高校3年生チーム(県内ベスト4チームを中心に)やサガン鳥栖U-18との試合を行う中で、強化を図る。また7月末から8月にかけて県外遠征を行いチーム力アップを図る。</p> <p>女子は、県内出身選手のふるさと選手での起用がどの程度可能かが、チーム状況に大きく関わる。県外の社会人、大学等のチームと交渉をして、選手確保を図っていく。また、12歳以下から始めているトレセン活動で成長してきた中学生選手、高校総体でチーム合流は遅れると思われるもの高校生選手の力を合わせて、本大会出場をねらう。</p> <p>社会人は、九州リーグ、県内リーグ、大学リーグと異なるリーグからの選手が集まるので、回数は少なく効率よい強化練習を行い、本大会出場を目指す。</p>	成年男子		本大会出場
			女子		本大会出場
			少年男子	本大会ベスト8	本国内出場
6	テニス	<p>選手が決まり次第、男子、女子、ジュニア合同で、可能な限り毎週、強化練習を実施する。</p> <p>例年、九州ブロック後は強化練習はしていないが、今年は継続して本国内前まで行っていく予定。また、他県との強化試合も実施していく。</p>	成年男子	ベスト8	本国内出場
			成年女子	ベスト8	本国内出場
			少年男子	ベスト8	ベスト32
			少年女子	ベスト8	ベスト32
7	ホッケー	<p>少年男女については、他のチームとの練習試合をできるだけ多く行う。できれば強豪チームが多い(関西・中京)地区への遠征を実施したい。全国大会は、ほとんど人工芝でのゲームが行われている為、長崎県(川棚町)への日帰り遠征を多く実施し人工芝慣れをしたい。</p> <p>成年男子については、人工芝での練習を多くこなす事。また、ふるさと選手制度を有効活用し、他県との練習試合を多くこなす。</p> <p>成年女子については、地元のメンバーが集まるのが難しい為、各個人でのメンタル・体力強化を図る。また、ふるさと選手制度を有効活用する。</p>	成年男子	本国内出場	九州ブロック大会決勝進出
			成年女子	本国内出場	九州ブロック大会決勝進出
			少年男子	本国内5位入賞	九州ブロック1位
			少年女子	本国内5位入賞	九州ブロック1位

No.	競技	強化の方針	九州ブロック大会、本国内での競技成績目標		
			種別	最高目標	最低目標
8	ボクシング	<p>【少年】</p> <p>昨年度から、少年の成績が伸び悩んでいるところである。まずは、競技人口が他県に比べ大幅に少ない。この少ない人数で他県に勝つためには、各学校だけの練習ではなく、佐賀県全体での合同練習・強化合宿の回数を増やし、県内で競わせることが必要と考えている。そして、県外の強豪校と練習試合を多く組んで、実践強化を図っていく予定である。</p> <p>【成年】</p> <p>成年の選手は、県内在中の選手と、大学に進学している選手がいる。県内在中の選手については、昨年度の反省として他県選手との実践練習の回数が少なかったため、本年度は県外遠征の回数を増やし実践の強化を図る。関東の大学に進学している選手は、誰もが一流の大学に進学しているため、各大学でしっかりと練習を積んで強くなって帰ってきてもらう。ふるさと選手としてしっかりと働いてもらう予定である。</p>	成年男子	1位	4位
			少年男子	3位	4位
9	バレーボール	<p>成年女子（久光製薬）については昨年同様、県内での活動機会を増やしてもらい、国体出場、優勝を目指してもらいたい。</p> <p>成年男子（選抜）はレベルが高い九州を突破することが大前提となるが、関東大学リーグで活躍する選手が数名おり、ふるさと選手として出場できれば昨年同様にチャンスはある。</p> <p>少年男子、少年女子は県総体、九州総合予選（4月）の大会を見て選抜チームで出場する。全国高校総体出場者が多数選出されるので、日程的に選抜チームでの練習時間が限られることが毎年の不安要素としてある。</p> <p>合宿で何とかチーム力向上に努めたい。</p>	成年男子	国体ベスト8	国体出場
			成年女子	日本一	国体出場
			少年男子	国体ベスト8	国体出場
			少年女子	国体ベスト8	国体出場
10	体操	<p>【体操競技】</p> <p>○成年男子</p> <p>選手は揃っているため大学との連携を密にして強化を図る。</p> <p>○成年女子</p> <p>今年は4名しか選手がいないが、大学との連携はしっかり取れており、機会あるごとに大学を訪問し、順調に強化が図れている。</p> <p>○少年男子</p> <p>連日計画的な強化に励んでいる。順調に仕上がっており、期待が持てる。</p> <p>○少年女子</p> <p>国体入賞に向けて連日計画的な強化に励んでいるが、故障者もあり万全な態勢で挑めるように、日々努力している。</p> <p>【新体操】</p> <p>○少年女子</p> <p>個人・団体ともにミスのない演技を目指し、技術面とメンタル面の強化に努める。演技の熟練度をバレーなどで仕上げ、芸術的評価での減点を減らし実施の質を向上させる。かささぎRGと連携し、ジュニア選手との強化練習等を開催し選手の育成を行う。</p>	成年男子	国体8位以内	国体出場
			成年女子	国体8位以内	国体出場
			少年男子	国体8位以内	国体予選通過
			少年女子	国体8位以内	国体予選通過
			少年女子（新体操）	九州ブロック大会 優勝 本国内 優勝	九州ブロック大会 優勝 本国内 優勝
			成年男子	国体入賞	本国内出場
11	バスケット	<p>【成年男子】</p> <p>①佐賀県居住選手のレベル強化…個々の能力+コンビネーションプレイの確立 （攻）単純なプレイの連結・連動の理解を周知徹底する。 （守）多種・多様なディフェンスを活用して、優位なゲーム展開を導き出す。 ②競技力向上と並行して、平成35年佐賀国体を視野に入れた長期的な強化の継続を維持するために、ヘッドコーチ・スタッフの後継者を育成する。</p> <p>【成年女子】</p> <p>ここしばらく国体で点数がとれていないので、まずは全国で通用する脚力をつけるためのトレーニングを増やし、練習日も増やして、40分間走り続けられるチームづくりをする。他県に比べて低身長なので走りまくって点数を取りに行く。</p> <p>【少年男子】</p> <p>各県1枠最後の出場となる今回、何としても点数を取りに行く。1試合を通して走り続ける足、高身長者を押さえ込む足、ショットを決め続ける足をつくる。ただ走るだけの足ではなく、止まる足、スタートする足、飛ぶ足、方向を換える足、とにかく足足</p> <p>【少年女子】</p> <p>ローテーションバスケットボールを行いながら、スピードある走り、厳しいDF、力強い1on1をプレイするゲーム構築を目指す。</p> <p>①トランジションの速さを求めた練習に取り組む。 ②1on1の様々なシチュエーション練習に取り組む。 ③コート上ではベストを尽くす重要性和タフなメンタルを育成する。</p>	成年男子	本国内入賞	本国内出場
			成年女子	本国内優勝	本国内出場
			少年男子	本国内ベスト4	本国内ベスト8
			少年女子	本国内ベスト8	本国内出場
12	レスリング	<p>昨年はここ数年で最低の成績（競技得点9.5）であった。そのため早急に強化方針の方向性を考えいく必要がある。特に成年は大学生が中心となるが、階級が同じ選手がいるため出場階級の決定に苦慮している。また成年は今年度より実施階級変更により予選会方法も難しくなっている。</p> <p>昨年の少年は今年の2、3年生が中心選手だったため、今年の活躍が期待できる。</p> <p>【成年】</p> <p>大学、自衛隊体育学校の選手が出場予定である。それぞれの各所属で強化を図る。ヘッドコーチと機会があるごとに連絡を取り選手の状況を把握する。得点が期待できる選手は全日本選抜大会（世界選手権予選）に出場するため、激励を兼ね視察に行き他県の動向を探る。</p> <p>〔期待選手〕</p> <p>角 雅人（自衛隊体育学校）アジア選手権出場 中村 百次郎（日本体育大学）新人大会両スタイル優勝 宮崎 宣征（神奈川大学）JOC3位</p> <p>【少年】</p> <p>鳥栖工業、鹿島実業の生徒が出場予定である。平日は各高校で強化を図り休日や長期休業を利用し県外の強豪校や大学で強化を図る。特にグレコローマンの専門が本県にはいないため、そのことを考え遠征先を決めていく。</p> <p>〔期待選手〕</p> <p>嶋江 翔也（鳥栖工業）昨年の選抜、全国総体、国体2位 田代 拓海（鳥栖工業）全国選抜3位 諏訪間翔太郎（鳥栖工業）JOC優勝</p>	成年男子	20点	10点
			少年男子	20点	10点
13	ウエイトリフティング	<p>【少年男子】</p> <p>少年男子は県内に1校のみが部として活動しているが、指導者のもと強化が図られている。今年度も国体強化合宿を行い、競技得点に結びつくよう努力したい。</p> <p>【成年男子】</p> <p>成年男子は昨年スナッチ競技5位入賞した+105級の佐藤匠選手に期待している。また、福大2年生の松尾淳一も順調に記録を伸ばしているため、8位以内の入賞に期待する。国体強化合宿は、少年と成年の合同合宿として強化策を図ることとする。</p>	成年男子	国体競技得点 10点	国体競技得点 5点
			少年男子	国体競技得点 5点	国体競技得点 3点

No.	競技	強化の方針	九州ブロック大会、本国内での競技成績目標		
			種別	最高目標	最低目標
14	ハンドボール	<p>10年後の国体で開催県にふさわしい成績を取るためには、強化に加え、中・長期的な視点に立って次期国体で活躍ができる選手の発掘・育成や指導体制の整備などに計画的に取り組む必要がある。そのための取り組みは以下の通りである。</p> <p>◇小学生からの体力向上及びスポーツ普及活動を推進し、中学生の運動部活動等を活性化させ、競技力向上を図る。</p> <p>◇中学校から高校まで取り組んできた選手が、卒業後も競技を続けられる環境を整えるとともに、組織的・専門的な指導を受けられるようにする。</p> <p>◇有望選手が、卒業後も県内の企業等に就職し、安定した生活基盤を築きながら、選手として活躍ができるよう、企業や競技団体等の協力を得ながら選手と企業を結びつける活動を行う。また、選手が佐賀県で継続して競技を続け、指導者としても活躍できる環境を整えていく。</p> <p>◇指導者の養成や資質向上を図る上で、指導者の核となる人材の養成を行い、地域で活躍している指導者のスキルアップを図る。また、強化拠点等の設定や研修会等の開催などを行うことにより、指導者が指導力を発揮できる環境の整備を図る。</p> <p>◇各学校や職場の理解のもと、指導者も絶えずその資質の向上のための取り組みを行っていく。</p>	成年男子	優勝	上位入賞
			成年女子	国体初戦突破	国体出場
			少年男子	国体初戦突破	国体出場
			少年女子	国体初戦突破	国体出場
15	自転車	<p>○ 少年男子の個人能力の強化</p> <p>○ 個人の持タイムをできるだけ高い水準まで伸ばしたい。</p> <p>○ 他県の能力の高い選手たちとの合同練習等で意識の向上を図りたい。</p>	成年男子	個人優勝	個人8位以内
			少年男子	個人優勝	個人入賞
16	ソフトテニス	<p>ここ数年種別のブロック突破及び本大会入賞から遠ざかっている。そのために社会人については九州大会以上のランクの試合に参加し、レベルの高い試合の経験をつむ。学生については励んでもらうことはもちろんだが、社会人との練習の機会を作り、技術、戦術、体力の向上を図る。また、国体は団体戦である為、コミュニケーションをしっかりとりるようにし、「チームワーク」を高める。</p>	成年男子	1位	2位
			成年女子	1位	2位
			少年男子	1位	2位
			少年女子	1位	2位
17	卓球	<p>【成年男女】 今年度も、県外の大学に進学した学生が主力メンバーとなる可能性が高いため合同練習は難しいが、予選会等で帰佐した折に場所を確保し練習会を行い意志疎通も図りたい。</p> <p>各進学先でエース級としての力をつけてもらえるよう出身高校の監督とも密に連絡をとり、状況把握に努め選手の意識を高揚させるよう働きかける。</p> <p>【少年男女】 敬徳・北陵・佐商・清和において、それぞれ各母体での練習を行い6月下旬の予選後、合同練習会や県外遠征を行う。</p> <p>中3からの出場が可能である為小・中・高の上位選手で合同練習会や講習会を行う。</p> <p>近年、小・中学生に県外流出もみられているのでジュニア育成の活性化と共に県内の中・高校で育てる体制づくり、魅力あるチーム作りが必要である。</p> <p>その為には、まず指導者育成を図りたいということで今年度は年三回小・中・高生を指導されている全国レベルの講師を呼び講習会を行う予定である。</p> <p>小・中・高校専門の指導者を増やしたい。教員採用試験などでの配慮をお願いしたい。</p>	成年男子	本国内体 ベスト8	九州ブロック予選通過
			成年女子	本国内体 ベスト8	九州ブロック予選通過
			少年男子	本国内体 ベスト8	九州ブロック予選通過
			少年女子	本国内体 ベスト8	本国内体初戦突破
18	軟式野球	<p>軟式野球は、個々の能力だけではなく、チームとして戦略的に戦うことが重要であり、長期的な強化が必要になる。</p> <p>その強化を図るためには、期間や資金が必要であり、今年度も例年とおり選考会を実施し、優勝チームを中心としてチームを編成するが、補強すべき点があれば、他のチームより選手の補強を行い、選抜チームを編成したい。</p> <p>特に、バッテリー中心の守りを重視したチームを目標に編成するため、能力の高い投手の発掘と育成に重点を置く。</p> <p>選抜チームは、強化練習を行うとともに、他県への遠征や県外チームを招聘して強化試合を行い、チームプレーの精度を高める。</p> <p>今後は、佐賀県軟式野球連盟強化部長を中心に代表チームの選抜と実績のある経験者の意見を取り入れながら、指導に当たる。</p> <p>また、将来的に中心となる選手を確保するためには、有望選手の雇用先が必要であり、選手を受入れる企業・団体等の支援を確立させる。</p>	成年	本国内体優勝	本国内体出場
19	相撲	<p>例年、国体までに10回ほど強化練習会を実施している。</p> <p>成年男子は地道な強化が実り一昨年数十年前ぶりに決勝トーナメントに進出し、昨年は選手の層も厚くなりそれ以上の成績を期待したが予選落ちという結果だった。今後は全国トップレベルの長崎県との合同練習や、九州情報大学への出稽古等を計画し、より一層のレベルアップに努めたい。</p> <p>少年男子は全国でも低いレベルなので、まずは人材確保、人材発掘をし、基礎練習をしっかりとこない少しでもレベルを上げていく。</p> <p>他県の成年上位入賞チームは現役大学生及び全国トップレベルの教員で構成しているところがほとんどで、今後の指導者の確保という面もあわせて教員の採用が必要と考える。</p>	成年男子	決勝トーナメント進出 (ベスト 8進出)	予選1勝5点
			少年男子	予選1勝	予選1点
20	馬術	<p>(1)指導者の養成・確保、ジュニアからの成年選手の育成、ジュニアの確保、馬匹の確保 (2)今後の国体すべてに向けて選手強化、ジュニアの確保・募集をおこなう。</p>	成年男子	個人1位(ブロック大会) 3位入賞	8位入賞
			成年女子	個人1位(ブロック大会) 3位入賞	8位入賞
			少年男子	個人1位(ブロック大会) 3位入賞	8位入賞
			少年女子	個人1位(ブロック大会) 3位入賞	8位入賞
21	柔道	<p>成年男子・女子のふるさと選手を早期に選定し、県外の強化遠征を実施し、本国内入賞を目指す。</p> <p>また、成年男子女子・少年男女にあつては、強化スタッフを早期に選定するとともに、現在行っている中学・高校・一般の強化の場(毎週火曜日)を確立し、佐賀県柔道協会全体で連携を図りながら、効率的な県外遠征を行い予選突破を目指す。</p>	成年男子	本国内体ベスト4入賞	本国内体入賞
			成年女子	本国内体入賞	本国内体出場
			少年男子	本国内体入賞	本国内体出場
			少年女子	本国内体入賞	本国内体出場

No.	競技	強化の方針	九州ブロック大会、本国内での競技成績目標		
			種別	最高目標	最低目標
22	ソフトボール	<p>(1)平成26年度の強化方針及び競技成績目標について 平成26年6月現在、各種別において、候補選手を選定したところである。今後、4種別で強化に取り組み、8月末の九州予選突破を目指している。最終的な目標は6位入賞であるが、競技レベルが高い九州予選を突破することができれば、必然的に6位入賞も可能と考えている。また、今年は隣県開催であるため、昨年度4種別ともに九州予選を突破した長崎県が不参加ということで、本国内出場の高率が高まったと考えている。</p> <p>(2)35年国体に向けた中・長期計画について －連盟としての事業－ ・小学生を対象に普及事業を展開している。 ・この普及活動を基に、トップアスリートの育成を目指す。(中学女子のNTS事業) －県に対しての要望－ ・成年男子：日本リーグチームへの経済的なバックアップを考えてほしい。</p>	成年男子	優勝	九プロ予選突破
			成年女子	6位入賞	九プロ予選突破
			少年男子	6位入賞	九プロ予選突破
			少年女子	6位入賞	九プロ予選突破
23	フェンシング	<p>【成年男子】 「ふるさと選手枠」を活用した現役大学生3名と県内選手による国体選手予選会の開催になる。この予選会において選出された、成績上位3名でメンバーを構成して本国内へ臨む。 今年度の成年男子は、フルレとサーブルの2種目が大会種目になっている。サーブル種目では2名が専門的に取り組んでいるため、強化の方針は本国内での上位進出を目指したい。</p> <p>【成年女子】 成年女子は諸般の事情により、昨年度の九州ブロック大会ではベストメンバーで出場することができなかった。今年度の成年女子の予選会種目は、フルレとエペの2種目で九州ブロック大会が開催される。成年男子と同様に現役大学生の「ふるさと選手枠」を活用した、メンバーで臨むことになるが、今年度は予選種目のエペを得意とする選手がいなかったため厳しい状況にある。 強化の方針としては最低目標のブロック予選突破だけは図りたい。</p> <p>【少年男子】 少年男子は昨年度の九州ブロック大会への出場が果たせなかったが、新年度を迎え新入生が加入したことにより、待望のチーム編成が可能になり九州ブロック大会の予選突破を目指し強化を図る。</p>	成年男子	本国内決勝トーナメント進出	本国内予選1回戦突破
			成年女子	本国内出場	九州ブロック大会予選会突破
			少年男子	本国内出場	九州ブロック大会予選会突破
			少年女子	本国内ベスト8入賞	本国内出場
24	バドミントン	<p>バドミントンの佐賀県の競技人口は、横ばいかやや増加という傾向がここ数年続いている。数年前からのジュニア期からの一貫指導が少しずつ成果を出しつつあるので今後とも小・中・高からの合同練習をしながら強化を進めていきたい。</p> <p>また、ここ数年国体候補選手の成年男女・少年男女による合同練習会を行った。そこでは競技力の向上には、まず意識改革が必要であるので、ふるさと選手も含めたチーム佐賀としての団結力の育成及び個人やチームとしての目標をより高く明確化していくことの浸透を図った。小、中、高、一般のたてのつながりのなかでアドバイス等をする姿も見られた。今後とも全種別合同による練習を入れながら意識改革と競技力の向上を目指していきたい。</p> <p>佐賀国体に向けてまずは、指導者の確保が必要である。近年佐賀の中学生選手が県外に流出していく傾向があるので少年の強化には魅力的な指導者の確保をして流出を食い止めたい。また3年後の全中開催への強化も国体への強化と連動させながらステップアップの一つとしていきたい。</p>	成年男子	本国内ベスト8	本国内1回戦突破
			成年女子	本国内ベスト8	本国内出場
			少年男子	本国内ベスト8	本国内出場
			少年女子	本国内ベスト8	本国内出場
25	弓道	<p>※一般男女選考 ①1月～3月までの各競技会成績を考慮する ②選考会を3回実施 5月初旬に選手を決定した 特に女子の選考には指導員資格を限定され苦慮した。</p> <p>※一般男女の強化 ①5月18日より強化練習を毎週日曜日に行う。 ②特に遠的の指導を重点に連盟内実力者(教士)による指導を行う。 ③月～土曜日は各自の道場での練習を義務付ける。</p> <p>※少年男子・少年女子 ・代表選手の顧問と監督が連絡、連携を取りながら、計画的に練習会を実施する。 ・代表選手の顧問と監督が、射技について共通理解を深め、各校での練習でも技能が深められるようにする。 ・他県の代表との練習試合等を行い、本番に通用するメンタリティーを養成する。 ・遠的に適した弓や矢の研究を行うなど、道具の面でも選手をサポートする。</p>	成年男子	ブロック大会 3位内入賞 本国内 3位内入賞	ブロック大会 5位内入賞 本国内 8位内入賞
			成年女子	ブロック大会 3位内入賞 本国内 8位内入賞	ブロック大会 4位内入賞 本国内 8位内入賞
			少年男子	ブロック大会 2位内入賞 本国内 8位内入賞	ブロック大会 2位内入賞 本国内 8位内入賞
			少年女子	ブロック大会 2位内入賞 本国内 8位内入賞	ブロック大会 2位内入賞 本国内 8位内入賞
26	ライフル	<p>【少年種目の強化】 銃器を保管できる施設も無く、本人が銃を所持できないためビームライフルによる強化を中心に行う必要がある。他県との合同練習、大会への参加により経験を積み技術の向上を図る。</p> <p>【有望種目への予算の集中配分】 センターファイアーピストルやエアライフル成年の種目が有望である。確実に天皇杯得点を獲得するため予算を多く配分していきたい。</p>	成年男子	ブロック3名通過 天皇杯得点10点獲得	ブロック2名通過 天皇杯得点5点獲得
			成年女子	ブロック1名通過	ブロック1名通過
			少年男子	ブロック1名通過	ブロック1名通過
			少年女子	ブロック1名通過	ブロック1名通過
27	剣道	<p>平成21年度から実施している県剣道連盟主導による成年男女及び中学生・高校生を選抜、強化指定選手として指名し、自覚と使命感を持たせ積極的に稽古会等に参加させ、指定選手として士気の高揚を図るとともに技術はもちろんのことメンタル面の強化育成に努める。</p> <p>【具体的方策】 ① 少年男女は、試合練習偏重から脱却し、基本の重要性を初心に戻り基礎・基本の修練に努めさせる。 ② 成年男子は、攻撃型の選手を選考して育成・強化を図るとともに、自己の課題を明確にした強化を図る。 ③ 成年女子は、スピード養成と試合の駆け引き、積極的に技を出して攻撃する積極果敢な選手の強化育成を図る。</p>	成年男子	優勝	ベスト8
			成年女子	優勝	ベスト8
			少年男子	優勝	ベスト8
			少年女子	優勝	ベスト8
28	ラグビー	<p>【成年男子】 7人制が始まって2年目、他県のレベルはそれなりに把握できたので、本県の人材発掘、元トップリーグ選手や現役大学生を活用し、代表権を獲得したい。</p> <p>【少年男子】 佐賀工業高校の選手を中心に選考を行う。夏合宿で強化し、5年連続の予選突破を果たし、本国内での優勝を目指す。</p> <p>【女子】岩手国体(2016年)からの正式競技を目指す女子ラグビー(7人制)の普及及び強化、ジュニアラグビークラブ等との連携による人材確保</p>	成年男子	本国内優勝	代表権獲得
			少年男子	本国内優勝	代表権獲得

No.	競技	強化の方針	九州ブロック大会、本国内での競技成績目標				
			種別	最高目標	最低目標		
29	山岳	<p>佐賀県山岳連盟の国体（佐賀国体）に向けた強化の方針は以下の3本柱を考えている。</p> <p>①選手の育成 ②指導者の育成、国体のための組織作り ③スタッフの育成・拡充</p> <p>①については短期目標から長期展望まで考えながらの育成を行う。具体的には現高校生、中学生は直近の国体での上位入賞を目指すことで佐賀国体時には成年の選手としての活躍につなげることができると考える。佐賀国体時の少年種別については小学校低学年生徒の育成・発掘を行う。この種別は男子については有望な選手が見つかっているが女子については発掘ができていないので早急に解決する必要があるし、前述の男子に置いても層が厚いとは言えないのでその点も含めて発掘育成を推し進めていく。</p> <p>②指導者の資質向上と次期指導者の発掘を行う必要がある。資質向上についてはトップアドバイザー事業等を最大限活かし指導方法について見直し再構築を行う。又、国体へ向けての組織作りも取り組み始める。当山岳連盟が小規模団体であり国体の運営の中核に当たる人材を確保するのも非常に困難になると予想されるために早急に取り組みなければならない。さしあたっては、競技運営部門に樋口義朗（現多久高校）をチーフに置く。又、全体運営のチーフに武末良樹（現鳥栖高校）を置き、両チーフの連絡体制がリアルタイムにとれるように武末良樹の多久高校への人事異動をお願いしたい。</p> <p>③ここでいうところのスタッフはルートセッター、ジャッジ、トレーナーである。ルートセッタージャッジについてはスポーツコーチ育成費事業等を利用してさらに上の資格を取得してもらい高い見地からの競技への還元を考えている。トレーナーについても現在2名のトレーナーに専属でついでてもらっているが同様に強化事業費等を利用して競技の専門性について知見を高めてもらい今まで以上に深く関わってもらう。それと共に、1種別1トレーナーが実現できるように新トレーナーへの声かけを積極的にを行う。</p>	成年男子	リード競技、ボルダー競技とも3位以内入賞	両競技6位入賞		
			成年女子	九州ブロック通過	ブロック3位		
			少年男子	本国内10位以内	九州ブロック通過		
			少年女子	本国内6位以内入賞	九州ブロック1位通過		
30	銃剣道	<p>成年の国体選手は佐賀県は、自衛隊が補給処の部隊しかなく、ふるさと選手に頼る以外に有りません。福岡・長崎の普通科連隊の合宿参加中の選手で佐賀県出身者を選考する事になります。練習は、福岡・長崎の部隊をお願いを致します。</p> <p>少年は唐津西高校剣道部の中から予選会を通じて選考を致しますが、他には唐津南高校にも1名有望な選手もおります。練習は月に4回剣道部の先生に割当てていただいております。山口会長、小野が指導来校。</p>	成年男子	8位以内	3回戦		
			少年男子	8位以内	本国内出場		
31	スケート	<p>現在、スピードクラブ、フィギアクラブともクラブ員0人の状態が何年も続いています。スケート連盟としては、国体予選の参加を目指していますが、最近では、予選も参加できない状況が続いています。</p> <p>スケート場がないので、クラブ員を募集することは難しいですが、佐賀から福岡県のスケートクラブに通われている選手の情報を福岡県スケート連盟の方からいただいているところです。</p>	—	—	—		
32	クレール	<ul style="list-style-type: none"> 公式大会に積極的に参加する（3回以上） （県代表は公式大会参加上位得点者から選出） 国体（ブロック含む）強化候補選手の指定（射撃場入場料の免除・装弾等の補助） スキート選手9名・トラップ選手5名（4月より） 本部公式大会への参加（参加費用等の補助） 個々選手のメンタル部分の強化等 若い選手の育成 九州射撃連盟による国体強化合宿への参加 	スキート	九州ブロック大会 本国内	3位入賞	九州ブロック大会 本国内	予選通過 15位以内
			トラップ	本国内	入賞	本国内	20位以内
33	空手道	<p>本年度5月より、高校生を中心とした競技力向上の強化練習会を実施中成年選手も、スピード・体力がある高校生との稽古により体力向上を行っています。</p> <p>1-1 短期計画 形競技は、短期的な成長は難しいので高校生から長期的な強化で取り組みます。 組手競技は、高校生3年生で有望な選手がいるので、成年選手と一緒に稽古に取り組ませ、技術向上を図る。</p> <p>1-2 長期計画 形・組手とも中学・高校生でタレント性がある有望選手がいるので、強化練習会で基礎からの強化を実施し、まずは九州レベルで競技できる選手を育成する。</p>	成年男子	九州ブロック大会 本国内	2位以内入賞 上位入賞	九州ブロック大会 本国内	初戦勝利 初戦勝利
			成年女子	九州ブロック大会 本国内	2位以内入賞 上位入賞	九州ブロック大会 本国内	初戦勝利 初戦勝利
			少年男子	九州ブロック大会 本国内	2位以内入賞 上位入賞	九州ブロック大会 本国内	初戦勝利 初戦勝利
			少年女子	九州ブロック大会 本国内	2位以内入賞 上位入賞	九州ブロック大会 本国内	初戦勝利 初戦勝利
34	スキー	<p>① 夏場（オフシーズン）における強化練習。（アスレチックジム等を利用して） ② 自主トレーニングプログラム作成をし、候補選手への練習実践へのチェックと支援。 ③ 強化合宿の実施。 ・ 12月末 北海道ニセコにて約10日の実践練習 ・ 1月中旬 大山にて3日間の実践練習 ④ 早朝練習（12月～2月 主に日曜早朝（オープン前））におけるポールセット実践練習。</p>	成年男子	60位以内（タイム差10秒以内）	70位台、（タイム差15秒以内）		
			成年女子	60以内	最低2名の選手参加と強化		
			少年男子	九州1位。全国80位台。	全国100位以内		
			少年女子	九州1位。全国80位台。	全国90位以内		
35	アーチェリー	<p>各種別において選手数が少なく、長期的に（佐賀国体を基準に）選手の育成強化が求められる。特に少年においては県立学校の再編等も今後関わってくる事が予想され、現状のままでは大変厳しい状況が見込まれる。まず、現有選手の強化・用具整備、更に重要な指導者の育成と獲得が急務である。</p> <p>佐賀国体を基準とすると、重要なのが小中学生選手の獲得。これを、チャレンジスポーツ事業や全日本アーチェリー連盟のエリアマネジメントリーダー事業をきっかけに行いたい。その後定期的な講習会を開催し定着させ選手の獲得につなげたい。</p> <p>成年においては、少年で選手として活躍した選手であっても卒業後の進路によって選手生命が大きく左右されているのが現状。国体に向けた取り組みを県民全体に広く浸透させ理解を得る事が当協会の選手たちにおいては力になると思われる。職場の理解を得られる努力が必要である。現段階では進捗し3.4年間のスパンで選手の世代交代を図っていくことが最善の方法と思われる。</p>	成年男子	国体入賞	国体出場		
			成年女子	国体入賞	国体出場		
			少年男子	国体入賞	国体出場		
			少年女子	国体入賞	国体出場		

No.	競技	強化の方針	九州ブロック大会、本国体での競技成績目標		
			種別	最高目標	最低目標
36	カヌー	<ul style="list-style-type: none"> ・国体に向け合同練習、合宿の実施 ・県選抜チームを編成し、月に2～3回をめぐり合同練習・合宿をおこなう。選手の意識やチームワークの向上を目指す。 ・指導者の確保、育成 <ul style="list-style-type: none"> ① 平成27～30年度までに、教員採用試験(スポーツ・芸術特別選考)で指導者を確保する。採用の内容資格で(優れた成績をだした指導者)まで広げてほしい。 ② 県内各チームの指導者を集め、強化方針の共通理解や技術力向上の勉強会をおこなう。県外強豪チームの指導者の元で研修をおこなう。 ・施設の有効利用 ・佐賀県ボート協会の協力で嘉瀬川ダム(しゃくなげ湖)を利用。全長2500mのコースは全国でも少なく、有効利用することで競技力向上を図る。 ・カヌー競技の普及 <ul style="list-style-type: none"> ① カヌー教室実施、6～10月に一般の人を対象におこなう。場所(神埼市B&G海洋センター) ② ジュニアの強化(小・中学生) 神埼ジュニアカヌークラブ、カヌー競技専門の指導者を置き平成25年4月から活動開始。	成年男子	本国体での得点獲得	本国体出場
			成年女子	出場者なし	出場者なし
			少年男子	本国体3位以内入賞	本国体得点獲得
			少年女子	本国体3位以内入賞	本国体得点獲得
37	ボウリング	佐賀県ボウリング連盟に籍を置く会員が年々減少している中にあり、非常に厳しい現状である。しかし、「国体に出場したい」、「もっと上手になりたい」と望む選手はいることから、そういう同じ思いの選手を集めて開催するリーグ戦を主にしながら、勉強会等も開催しながらレベルアップを図りたい。 平成35年の佐賀国体に向けては、何と言ってもジュニア層の底辺拡大と育成が急務である。現在は、唐津地区で高校生数名を集めて指導はしているが、部活までには程遠くこの数年で底辺拡大するのも難しい現状である。いくつかの高等学校を訪問し、ボウリング競技をアピールしていきたい。また、チャレンジ・スポーツ教室に多くのジュニアが参加してくれることを期待している。 また、一方では高校や大学を卒業するレベルの高い選手を佐賀へ就職させることも検討しなくてはならないと考えている。	成年男子	本国体での入賞	5位以内での本国体出場
			成年女子	4位以内での本国体出場	4位以内での本国体出場
			少年男子	本国体での入賞	3位以内での本国体出場
			少年女子	2名の選手を参加させる	1名の選手を参加させる
38	なぎなた	○成年 大学生と一般とを定期的に同じ場所に集合させ、強化練習を計画的に行う。県外への遠征にも数多く参加させる。 ○少年 各学校ごとの練習を充実させるとともに合同強化練習を実施し、メンタル、技術指導を計画的に行う。県内での他県を招へいしての合同強化練習や県外遠征を行い、より高い試合展開ができるようにする。	成年女子	本国体ベスト4	本国体入賞
			少年女子	九州ブロック1位通過 本国体優勝	本国体入賞
39	アイスホッケー	○ 学生(地元の佐賀大学)のレベルアップ。 ○ 社会人チーム(佐賀クラブ)の活動継続 ○ 夏場からの合同練習機会の確保による体制づくり ○ ふるさと選手の情報収集 県内にスケートリンクが無い場合、県外での練習を余儀なくされており、技術・体力ともに充実する大学生にとって、金銭面や移動時間などの負担で、十分な練習回数が確保できていない。このため、現在、社会人クラブチームの練習に参加することでこれを克服しており、そのための財政的支援として、県体育協会からの強化費が非常に効果的なものとなっている。 社会人チームの競技力維持のためにも、また、大学生チームのレベルアップのためにも、県体育協会の支援の継続をお願いしたい。	成年男子	九州ブロック大会優勝 国体2回戦突破(ベスト8)	九州ブロック大会3位(国体出場)
40	ゴルフ	【九州ブロック大会に向けて】 熊本県阿蘇郡のグランドチャンピオンゴルフクラブで開催される。 佐賀県選手団は、7/16(水)に現地入りして、7/17(木)の公式練習を経て、7/18(金)の九州ブロック大会に臨む予定です。 また、本国体(男子・女子)及び日本マスターズ(男子・女子)佐賀県代表選手は、北山CCにて結団式また結団式終了、監督交え練習会を予定、その後は、今年度代表選手は佐賀県内のゴルフ場どこでもメンバー料金にて練習ラウンドができるように決定しています。業界上げての国体選手を支援していきます。 主に個人練習が主体となりますが、定期的に合同練習会を取り入れていきます。	成年男子	昨年度より上位	昨年度より上位
			女子	昨年度より上位	昨年度より上位
			少年男子	昨年度より上位	昨年度より上位
41	トライアスロン	○ 県内外での合同練習会の実施。県外試合への有力選手の出場推薦。等により県内選手のレベルアップに努める。 ○ 昨年に引き続き、ジュニア大会の開催や講習会・練習会等実施シタレント発掘に努める。 ○ ふるさと選手も男女共に予選会に出場予定。	成年女子	優勝	8位
			少年女子	24位	36位